



▼担任教諭から名前を呼ばれて元気よく起立する白旗小の新1年生



新1年生入学おめでとう

令和3年度小・中学校入学式

4月9日（金）町内の各小
学校および甲佐中学校で、令
和3年度入学式が開催され、
4つの小学校で新1年生77人
が9年間の義務教育をスタ
トさせました。

本年度は甲佐小35人、龍野
小26人、乙女小8人、白旗小
8人、甲佐中学校90人が入学
白旗小学校（木山邦博校
長）では、同小体育館で入学
式を開催。上級生や来賓の参
加が見送られる中、保護者や
先生方に拍手で迎えられて新
入児童が元気よく入場。入学
児童氏名報告が行われ、名前
を呼ばれた新入児童たちは大

きな声で返事をし
起立しました。

木山校長は「みな
さんは、これか
ら白旗小学校の大
切な子供です。み
んなで力を合わせ
て、楽しい学校を
つくっていきま
しょう」と式辞。
在校児童を代表し
て上田竜太郎くん
（6年・芝原区）が
「これから白旗小の
仲間として楽しく
過ごしていきま
しょう」とあいさ
つしました。

震災復興の経験を活かして

震災支援派遣職員退任式

3月31日（水）町本庁舎で震災支援派遣
職員の退任式が行われました。

本町では熊本地震の発生に伴い、平成28
年度から全国各地の多数の自治体から派遣職
員を受け入れており、昨年度は鹿児島県の鹿
児島市と出水市から合わせて4人が町建設課
で復興業務に従事。任期満了に伴い、中迫由
香さん、河野剛さん、久永哲郎さん（いずれ
も鹿児島市）の3人が退任を迎えました。

出水市の野村祐司さんは、引き続き本町の
職員として業務に取り組みます。



▲（写真前列左から）中迫さん、河野さん、久永さん



◀ 流域の内水対策について意見交換する参加者

国・県・町合同で浸水対策

第2回緑川竜野川内水対策会議を開催

3月22日（月）に町生涯学習
センター・ホールで、第2回緑
川竜野川内水対策会議が開催さ
れました。

本町を貫流する一級河川緑川
の管理を行う国土交通省熊本河
川国道事務所および緑川に流れ
込む竜野川の管理を行う県と合
同で町が、合流点付近の河川な
どの現状を共有し浸水被害等を
軽減するための対策を推進する
ことを目的とする対策会議を令
和2年3月に設立。

令和2年7月11日の豪雨被害
や今年度実施された対策状況に
ついて報告が行われ、浸水被害
の軽減を図るために関係機関で
の協議などが行われました。

災害から命を守る

陸上自衛隊第42即応機動連隊が表敬訪問

4月2日（金）陸上自衛隊北熊本駐屯地（熊本市北区）に駐屯する第42即応機動連隊の祝昌行中隊長が奥名克美町長を表敬訪問しました。

同隊は平成30年に改編されたもので、災害時には要請に応じて、本町を含む県内9市15町3村の支援などを行います。

昨年7月に県南を襲った豪雨の際、熊本県知事からの災害派遣要請に応じて早急な初動対応を実施した同隊は、芦北町で被災住民の救助や支援を行いました。



▲奥名町長を表敬訪問した祝中隊長（左）



▲松永県央広域本部土木部長（左）に要望する奥名町長

地域間の幹線道路整備を

三本松甲佐線および町内県道の整備を県に要望

3月25日（木）熊本県県央広域本部で、一般県道三本松甲佐線道路整備促進期成会（奥名克美会長）が県道三本松甲佐線を管理する県に対して要望活動を行いました。

本路線は、美里町畝野を起点として、山間地域を縦断し緑川に沿って本町豊内に接続する唯一の幹線道路であり、地域住民の生活に欠くことのできない道路です。しかし、幅員が狭く未整備区間も多いため、同期成会が早急な整備を要望。奥名会長から松永清文県央広域本部土木部長に要望書が手渡されました。

また町では、町内の県道整備についても併せて要望しました。

移住者の視点で地域活性化を

地域おこし協力隊に委嘱状を交付



▲（左から）集落支援員の越名さん、地域おこし協力隊の佐藤さん、奥名町長、地域おこし協力隊の岡本さん

4月1日（木）町長室で、地域活性化に取り組む甲佐町地域おこし協力隊の2人へ委嘱状が交付されました。

同隊は、地域の活性化を目的として、都市住民など地域外の人材を地域の担い手として受け入れ、地域おこし支援や農林漁業への従事、住民支援などの地域協力活動を行う制度で、平成21年に総務省が創設したものの。

本町では、佐藤直樹さん（愛媛県出身・広瀬区）と岡本久子さん（熊本市出身・上豊内区）が隊員として地域活動に参加。宮内地域を中心とする農業振興や本町の魅力の情報発信など、各自の得意分野を活かしながら地域の活性化に取り組んでいます。

また、昨年度まで本町で隊員を務めた越名智美さん（大分県出身・大町区）は、集落の現状と課題を住民と共に整理しながら集落の維持・活性化に取り組む集落支援員に就任。総務省の支援を受けながら、本町のまちづくりに引き続き取り組まれます。